

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000187		
法人名	非営利活動法人 楠の木会		
事業所名	グループホーム楠の木園		
所在地	佐賀県佐賀市川副町鹿江869-1		
自己評価作成日	令和 5 年 6 月 19 日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 5 年 7 月 13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の思いを大切にしています。出来る限り自由に本人のペースで生活をして頂きたいと考えています。画一的な支援ではなく、個々の違いを理解し、利用者も職員も共に楽しく暮らすグループホームを目指しています。ゆっくり散歩をして、楽しく体操をして、テレビを見て、部屋で昼寝をする等それぞれが自由にできる自分の家のように暮らしてもらいたい。遠慮せずその人にとってここが居心地の良い場所であるようにと願い、日々努力をしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年1月に開設し、令和元年9月に現在の有明海に近い半農半漁の集落の中に移転したホームである。平屋建てのホームは日差しが入り明るく、清掃が行き届き清潔感漂う共有空間となっている。理念である「ゆっくり、一緒に、楽しむ」を職員全員で共有しながら実践し、入居者一人ひとりの意向をできるだけ尊重しながら支援に努められている。飲酒や喫煙なども自由で、入居者一人ひとりがストレスなく、自由に過ごされている。コロナ禍で外出することが難しかったが、最近は少しずつ戸外に出かけられるよう支援に努められている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」の運営理念を掲げ、利用者も職員も共に暮らし、生活の中にも楽しみを見つけていこう、両者ともに心豊かに過ごしていこう、その実践に努めている。	理念は事務所内に大きく掲示されている。入居者一人ひとりのペースに合わせて、ゆとりのある生活を過ごせるよう取り組まれているが、日々の業務が忙しく、理念を振り返る時間が確保できていない。	少人数や個別で、理念に関する振り返りを行う等、理念について職員間での振り返りと共有ができるよう、工夫を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者自身の参加は精神的にも、身体的にも難しい状況である。散歩の途中に挨拶や声掛けは積極的にしている。地域に利用者が参加できる行事がない状況である。	散歩の際は近隣の小学生等、地域の方に積極的に挨拶をされている。また、近所の方から野菜の差し入れがあるなど交流されているが、地域とのつきあいは十分ではない。	今後、地域包括支援センターと連携し、地域の行事の情報共有をする等、日常的な地域との交流を始める取り組みがなされることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が参加する地域の掃除などの中で認知症の事、グループホームとは等の話しをしたり、いつでも寄って下さいと声掛け、運営推進会議への案内もしている。「園便り」の回覧をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや地域役員、利用者の家族の方々に参加頂き、サービスの内容や外出、行事等の報告、また意見交換の場としている。様々な声を聞き、サービスの向上に活かす様努めている。	コロナ禍では、活動報告等を書面で入居者家族や地域住民、地域包括支援センター職員に手渡しされている。しかし、それに対する意見の聞き取りはなされていない。	今後は対面での運営推進会議の再開や、書面であっても返事を聞き取れるような工夫を期待したい。また、地域の代表者や民生委員等への参加も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川副町支所にて毎月開催されている川副ネットワークに参加し、情報交換及び研修等により、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域のネットワークに参加し、市の担当者や地域包括支援センター職員とは積極的に意見交換できる協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルの作成や研修により、身体拘束に関する知識の習得に努めており、禁止行為を理解している。日中は玄関、窓は開放し、夜間は玄関のみ施錠している。	玄関の施錠を含め、身体拘束等はなされていない。マニュアルを作成し、職員同士で声かけを行いながら、日々の実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	その人らしい生活を支援するという介護の目的を職員一人一人が理解している。利用者の尊厳を守ることを意識し、無意識のうちに利用者を傷つける事の無いよう注意と努力をしている。研修等も受講。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者にとって最善と思われる支援について考え、それぞれの立場や義務を知り、情報の共有にも努めている。制度に関しては更に多くの場が必要であろうと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、その内容を十分に説明し納得頂いている。改定の際には文書にて提示説明し、疑問や質問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が遠慮せずに何でも言える環境でありたいと願っている。頂いた意見要望は出来る限り反映させていこうと努めている。ケアプランの説明の際や面会の際もその機会と捉えている。	面会や病院受診の際に、家族等の意見や要望を聞かれている。出された意見については職員同士で検討し、運営に反映するよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中で、疑問や意見があればいつでも言える聞ける状況である。法人全体の運営や提案に関しては、代表者と話し合いの機会を別途設けている。	日々の業務の中で職員の意見や提案を聞かれている。個別にも相談を受けられているが、業務が忙しく、職員全員で意見を共有できる場が設けられていない。	会議の開催の他、業務の中でも職員全員が意見や、情報が共有できるように、場を設けられることに今後期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・労働条件の向上に努めようとの意思はあるが、成果としては不十分だと感じられる一層の取り組みを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に関しては、その機会の確保に努めている。職員一人一人に研修の機会を提示しているが勤務状況により参加できない事もある。職員の確保、勤務体系の整備も必要である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川副ネットワークの勉強会や講習会に参加し、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に傾聴することから始め、ゆっくりと本人のペースに合わせた対応を心掛けている信頼関係構築の上では、共感と受容が大切だと理解し、その関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談しやすい雰囲気や環境づくりに心がけ、要望等にはできる限り対応出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がどんな生活を望んでいるのか、その生活を実現させるためには何が必要なのかを本人・家族とともに考え、必要な支援に結び付けるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする対等な人間としての関係を築いている。「お互いさま」の関係を築くことが、その人が遠慮なくものを言い、我儘も言え、我慢せず自分を出せる場所となると考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況状態に応じて家族との話し合いの機会を持ち、一緒に考えていく。職員の出来る事、家族にしか出来ない事、家族の立場を尊重しながら、お互いに協力をしていきたいと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親類の方などが気軽に尋ねて来て頂けるよう、挨拶や声掛け、その環境、雰囲気作りに努めている。	コロナ禍では面会禁止で、電話でのやり取りであったが、現在は友人や親族等、馴染みの人の面会があっている。しかし、馴染みの場所との関係継続の支援は今ではできていない。	今後、感染症流行時でも対面での面会が継続できるような取り組みに期待したい。また、今後、馴染みの場所等への訪問ができるような支援にも期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が気を遣わず、自由に暮らしていくことを大切に考えている。一人一人が重要な人であるとの認識が孤立を防ぎ、支え合う関係になると考えそのような関係作りの支援に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要時はいつでも相談に乗ったり、支援できる状態であり、こちらから関係を断ち切ることはない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の価値観、考え方の違いを認めてその人らしく過ごせるよう寄り添い支援していこうと努めている。あくまでも本人が主体である事を忘れる事がないよう心している。	日頃の会話の中で入居者一人ひとりの希望や意向の把握に努められている。困難な場合は、表情や仕草などから本人本位に検討し、職員同士で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中からの読み取りや本人・家族との会話を通してその人のこれまでの暮らしや習慣等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	吉日の流れの中で一人一人の過ごし方を見守り、コミュニケーションを取りながらその人の「今」の状態や変化、能力を見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月又はいつ様に応じてケア会議を行い、本人への説明を行い、ともに目標に向かっていけるように努めている。モニタリングは情報を共有し、職員全員で取り組み、次の介護計画に活かしている。	本人や医師等必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画が作成されている。必要に応じて計画を修正、変更されている。また、6ヶ月に1回は計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活での様子や気づきは個別に記録している。口頭や申し送りなどにおいても職員間での情報共有を図っており、実践や介護計画の見通しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や状態に対応しながら利用者にとって今何が必要なのか、何を必要としているのかを見極め、柔軟に支援できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護の手続等においても、民生委員の方や市役所の担当者との協力の下で支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理のため月2回の訪問診療のほか、本人や家族の希望による病院への受信、歯の治療等もその状況に応じて適宜対応している。主治医との連絡相談できる態勢である。	本人や家族等の希望でかかりつけ医に受診され、家族の協力が難しい方へは付き添い支援がなされている。協力医療機関や専門医の往診体制が整備され、協力医療期間とは24時間相談できる体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護員は利用者の様子や体調、その変化等を看護師に相談している。情報共有し、個々の利用者の状態を把握することに努め、適切な処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には病院とホームで情報を共有している。必要に応じて、相談検討の場を設け、本人にとって最良と思われる支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、見取りの説明を行っている。重度化したり、終末期と意識できるような場合には家族・本人の意思の確認を再度行い、医師、看護師、介護職との連携を取り、チームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、契約の際に事業所でできることを説明されている。看取りもなされており、重度化した場合は状態に応じて本人や家族、医師等と話し合い、チームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	マニュアルや緊急連絡網を整備しているが、実際の応急手当や初期対応の十分な実践力を身につけるためには、より多くの訓練が必要であると思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川副ネットワークによる防災マニュアルに沿った訓練を実施している。この地域に置いての情報がまだ不十分であり地域との協力体制の構築や災害対策は現在未熟である。取り組みを始めている所である。	年2回、火災想定での避難訓練が実施されている。しかし、夜間想定や夜勤者の訓練参加がなく、火災以外の災害に対する対策も十分ではない。また、避難経路に物が置かれていたり、地域住民や消防団との協力体制の構築など、様々な災害対策はこれからである。	夜間想定と夜勤者参加の火災避難訓練の実施、地震や水害などの災害に対する対策と訓練の実施が望まれる。また、ホーム内の日常的な避難経路の確保が望まれる。そして、地域住民との協力体制の構築にも、今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人として尊重し、誇りやプライバシー、羞恥心等に十分配慮するよう努めている。自分の発する言葉や動作をしっかりと意識することが大事であり、相手の立場に立った支援を心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない柔らかい言葉かけや、対応がなされている。個人の書類等は、キャビネットに適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮せずに自由に自分の思いを表せるよう、そのためにはどんな環境が必要か、どんな働きかけが必要かを個々の職員で考え、支援していくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの主体は利用者本人であることを職員はしっかりと理解し、ケアする側を優先することのないよう日頃より心掛けている。本人の希望、ペースに添いながら個々の違いを大切に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな色合いやサイズ、似合う衣類など自分で選べる方には好みのものを選んでもらえるよう支援している。本人が買い物に行ける状況であれば、一緒に出掛けていく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お互いが助け合っているという意識を持つことを目指している。利用者も職員もそれぞれが力を持つことを知り、同じ生活者として楽しみを分かち合いたい。	入居者の希望に応じて献立に反映したり、季節の行事に応じた献立にしたりと、食事が楽しみなものになるよう工夫されている。食事の片づけを入居者と職員と一緒にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取や残量を確認し、その日の体調に配慮しながら支援している。水分に関しては、自由に好きな時に飲める状況である(水分制限のある方は除く)。熱い、冷たいは本人の好みに任せている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの声掛け、誘導支援を行っている。必要な方には口腔ケアや治療等歯科の訪問診療を受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、排せつの自立はその人の尊厳に深くかかわる部分なので、職員の倫理観、羞恥心への配慮などの向上も目指し支援している。トイレでの排泄を第一に考えている。	排泄チェック表を活用しながら誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援がなされている。また、支援の際にはプライバシーにも配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や冷たい水を飲むことで、胃腸に刺激を与えたり、歩く事、動く事で蠕動運動を促したり、できるだけ薬に頼らない工夫をしている。改善がない場合は、主治医にアドバイスをお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望とペースに合わせている。身体洗い方も湯温もそれぞれの好みに合うような支援を心掛けている。入浴日以外の日であっても本人の状況状態によっては希望に添うようにしている。	週3回の入浴であるが、希望に応じてシャワー浴で対応されている。言葉かけの仕方やタイミングなどを工夫しながら誘導されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で自分の体調がわかる、セルフケアの大切さを重視している。本人の感じていることを慮ることが出来るその環境を提供できるよう支援する努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の服薬の準備段階で、処方箋に目を通したり、薬の情報の確認をしている。服薬による状態の変化や用量等については見逃すことのないよう観察し、本人に本当に必要な薬なのか、医師への確認や意見を伝え、できる限り薬を減らす方向である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居する前の個々の生活を知り、好み、興味、それまでしていたことがあれば、出来る限り続けていけるよう支援をしている。嗜好品などの制限はしない(飲酒・喫煙等)。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により時間が許せば、その希望に添うようにしている。利用者も職員も共にいろんな場所に出かけ楽しむことを目標にしている。外出や買い物、外食など適宜支援できるよう努力している。	コロナ禍では、個別に買い物支援がなされ、散歩で戸外に出かけられるよう支援がなされていた。今後は花見や買い物、外食等の外出支援が検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人よりお金を所持したいとの希望がある場合においては、可能であるが、日用品購入金額以上の万単位の場合は検討し、不可能な場合もある。本人の管理能力により判断しているため、本人にとっては不本意なこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればそれに沿う支援をするが、家族より拒否があったりと困難な場合も少なくない。本人の希望を出来る限りかなえたい可能な限りの努力をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自然にと考えている。低下はしていても本人の持つ能力を少しでも活用するために、過剰な暖房や冷房は避け、自然光や自然を感じて生活をしてもらいたいと思っている。	共有空間は、臭いもなく清掃が行き届いて清潔感がある。また、適切な室温管理がなされている。職員はスリッパを履かない等、音にも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で走れじれに自由好きに過ごせるように配慮している。一人で部屋に居たい時もあれば、みんなと話したい時もある。本人次第の暮らし方の提供をと思っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物や使い慣れた物を持って来て頂いていいことを伝えているが、家族や身寄りのない方も多く、必要な物等は、本人と相談しながら購入し、少しでも心地よく過ごせるように取り組んでいる。	居室には使い慣れたものや好みのもの等、何でも持ち込みが可能である。持ち込み品や家具等の配置も自由で、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり、テーブルやソファの位置などを配慮し、できるだけ安全に安心して移動できるよう、自立を支援できるよう工夫している。		